

第25代専如（せんによ）門主
伝灯奉告法要 カナダ開教区合同参拝ツアー

2016年10月10日～23日

参加費：\$6,000（定員：30～35名）

ツアー引率：生田グラント先生

- 10月10日（月）
カナダ発
- 10月11日（火）
成田空港着→東京泊
- 10月12日（水）
築地本願寺参拝・東京観光
- 10月13日（木）
東京観光
- 10月14日（金）
稲田・西念寺参拝・日光観光
- 10月15日（土）
長野へ移動・善光寺参拝・湯田中温泉泊
- 10月16日（日）
国府別院参拝・黒部ダム・新潟泊
- 10月17日（月）
金沢へ移動・兼六園観光等・金沢泊
- 10月18日（火）
福井へ移動・永平寺（禅体験）加賀温泉泊
- 10月19日（水）
京都へ移動・京都観光
- 10月20日（木）
親鸞聖人所縁の地観光
- 10月21日（金）
専如門主様伝灯奉告（継承）法要参拝
- 10月22日（土）
京都（各自自由）
- 10月23日（日） 関西空港からカナダへ帰国



※ツアー詳細はカナダ各仏教会にて配布中です。
参加登録は <http://canada.kiecan.com/jsbtc2016>

近畿日本ツーリスト： 1-800-463-7723

ツアーに関する質問は生田先生(604) 908-4140

慈愛の瞑想



最近、TVOで土曜の八時から放送されている「仏教への旅 (Journey into Buddhism)」という番組を見ている。正確に言うと、週末は家を空けていて毎週録画しているのですが。ティム・スミス氏が司会を務め、ゲストとしてリバーエンド・ウルリッヒ先生がお出でになります。先生はウィニペグ本願寺の前の住職で在られました。

リバーエンド・ウルリッヒ先生は典型的なお寺の住職様でした。謙虚な態度、柔らかい声、笑顔、そして説法の端々から彼の温かさが伝わってきました。私の心に残っている説法は「慈経 (Karaniya Metta Sutra お釈迦様の慈愛のお言葉)」への彼なりの解釈を話したものでした。その時彼が無料で配った資料を基に、今私はその解釈をここに書き記すなんて先生は夢にも思わなかったことでしょう。この説法は先生（ここではウルリッヒ先生）と応答者（ティム・スミス氏）が交互に発話する形式になっています。

慈愛の瞑想

私の存在を構成する全ての因果と状況に対して、（慈愛の念を込めて）

地球上で最初に形作られた命に対して、（慈愛）

その日から脈々と続く、生じては消えていく全ての命に対して、（慈愛）

私がこの世に生まれる前までに私の生に関わりのある全ての因果と状況に対して、（慈愛）

幼かった頃に面倒を見て下さった全ての方々へ、（感謝と慈愛）

私が一人前になるまでにお世話になった全ての方々へ、（感謝と慈愛の念を込めて）

私の命を支える共同体を形作る全ての人々と全ての作用に対して、（感謝と慈愛）

私の肉体と精神が年を取り朽ちていくとともに、辛抱強く私を助けてくれる全ての方々へ、（感謝と慈愛の念を込めて）

私が自身の死に近づいていくにつれ、私は自身の体の全ての部分に、これまで随分と働いてくれたことに対して、また未来の七つの業（カルマ）に関わってくるであろう全ての命に対して、慈愛の念を込めます。

（慈愛）

そして、私がまさに死にゆくそのときに支えになってくれる全ての方々へ、（慈愛を全ての方々へ!!）

私という存在を支え育む全ての命へ、私の名が忘れ去られた後に私を導き持続させる全ての方々へ、私の顔が忘れ去られた後に私を導き持続させる全ての方々へ、迷いなく、憤りもなく、悪意もなく、私は自らの存在の全ての因果と状況に対して、始まりから終わりまで、（感謝、平和、慈愛）

Namo Maha Metta Bodhi （慈愛への目覚めの意識）

そして、リバーエンド・ウルリッヒ先生は法話の場に深い敬意を示しながらお辞儀をしました。

私がそうであったように、これを読んでいる皆様にも先生の言葉に何かを感じる事が出来たなら嬉しく思います。

合掌

デニス・マドコロ

私は現在、北米で仏教に関する講義をしております。その講義の生徒の中の一人に過去にも入門用の講義を受講したことのある者がおり、講義初日の私に対して素朴な疑問をぶつけてきました。クラスに対して、本格的な内容に入る前に仏教について疑問に思うことはないかと尋ねてみたら、彼女は手を挙げこう言うのです。「仏教の教えでは、人類はどのように創造されたと考えるのですか？」



私はいつも生徒が抱く疑問に興味を湧きます。大抵、その質問の背後には何かしらの物語（必然）が隠されています。今回の場合は、仏教的な背景を持つこの女子生徒が、基督教の聖書の創世記に載っている考えに囲まれた生活を続けた結果抱いた疑問だったのです。キリスト教徒にとって人類の起源は極めて重要です。（聖書の起源であるユダヤ教でもそうですが。）それは聖書の最初のページに書かれていることから窺えます。そこでは人類の起源にまつわる二つの異なる物語が記載されています。一つ目の物語には「神様は世界の6日目に最後に人間を創造した」とあり、二つ目には「まずは（人間の）男を塵から作り、他の動物を創造した後に、最後にその男のあばら骨（胸部）から女を作った」とあります。ですからその女子生徒は「では仏教ではどう説明されているのだろうか？」と疑問に思ったのです。

私はその学生に、まずは基督教に深く根差されている社会においてはその疑問が極めて自然なものであることを伝えました。そしてこう続けました。「仏教徒は人類の起源の問題に頭を抱えたことは無いのです」と。膨大な量の経典や解説書を紐解いてみても、世界の始まりについて言及されているものは非常に少ないです。ちなみにその中では、人間や他の生き物が忽然（こつぜん）と形作られており、その後、自然の摂理に従って、淀みに浮かぶうたかたのように消えては生じ、輪廻が続いていくとされています。その話が記載されている経典は全て重要なものとして扱われておらず、ほとんどの仏教徒がその起源にまつわる問題を意識してすらいなかったようです。実のところ、仏教では人類の出自にただ単純に関心が無く、その代わりに、「生」が人々にとってどのような意味を持っているのか、どのように苦を幸福や安寧に昇華させることが出来るのかといった問いに関心が向かっていたのです。

このように、仏教が固有の人類誕生の物語を持っていなかったが故に、仏教徒は現代的な進化論を比較的容易に受け入れることが出来たのでしょう。今日、例え完全に理解しているわけではなくとも、ほとんどの仏教徒が進化論を肯定し、仏様の教えと人類の出自の問題に矛盾を感じていません。「真実」を巡り宗教が対立してきた歴史を顧みると、我々仏教徒が一つの大きな「真実」について頭を抱える必要が無いことは幸運なこととも言えるのでしょう。

（翻訳 肥後）

「寒さ」と「暖かさ」

今年はず暖冬であると予想されていましたが、寒さの厳しい日々も続きます。寒暖の差等、詳しいことは分かりませんが、亡くなる方が多い季節でもあります。皆様お変わりありませんか。

私が大学へ通ったアルバータ州のレスブリッジという町では、バンクーバーのように四季がはっきりしておらず、どちらかというところ「夏」そして「冬」という季節感であったと覚えています。

私は北海道（札幌）出身です。レスブリッジ（正確にはテーブルという町でしょうか）同様に、北海道はジャガイモが特産品の一つとして知られています。以前、農家の方に美味しいジャガイモが育つ一つの理由に「寒暖の差」があると聞いたことがあります。「まるで人生のようだなー」と思いました。一日に「昼」と「夜」があるように、この世は相対的なことが多くあります。人生も「暖か」な時ばかりではなく、時として「寒い」厳しい時が必ずあります。

全てが整えられている温室の中の花よりも、厳しい自然環境で育つ花のほうが強いものです。今年春には、日本語を話す先生をトロントへ派遣する手続きを進めています。私達の人生も、厳しさがあっても逆境を勝縁として受け止められる強さを持ちたいものですね。

南無阿弥陀仏
カナダ開教区 総長
青木龍也



佛心

二〇一六年二月号
浄土真宗
トロント
本願寺